



インタビュー まぢすき♡

絵本作家・イラストレーター
東郷なりささん



【プロフィール】

横浜市戸塚区在住、4歳のお子さんを育てながら、絵本やイラストを描いている。日々の活動やイラストを紹介しているブログは左のQRコードから。



— 絵本作家になったきっかけは？ —

東京農工大学に通い生態学を学びました。もともと絵を描くことが好きで、大学のシンポジウムのポスターやNPOのイベントのリーフレット作成などに携わっていました。環境教育に関わるイラストを描きたくて、自然科学や博物学専門の作画を学ぶための学部を探しているときに、イギリスのケンブリッジにある大学で絵本作りを学べるコースがあることを知り、留学を決めました。図鑑に載せるような絵は写真のようにリアルに描く必要がありますが、絵本ならば自身の絵のテイストとテーマに合ったものが表現できるのではないかとピンとききました。

— どのようなテーマで作品を描かれていますか？ —

これまで文と絵の両方を担当したもので7冊出版しました。身近な場所にも、野生の動植物がさまざまに生きているということを感じられる子に育ってほしい、自然に目を向ける作品を作っています。外の世界には不思議な体験がたくさんあることを知って、それを発見するきっかけになってくれたら。本の世界で知った生き物や事象を探しに現実の世界に出かけて、実際に生き物に出会って、なんだろうと疑問をもったときに、また本の世界で調べて知識を深めていく。そのように、本と現実を行き来できるような作品になる

— 作中に登場する鳥の存在が印象的です。小学生の頃からバードウォッチングをしているので生き物の中でも特に鳥に詳しくなりました。美しい羽や声からもわかるように視覚や聴覚に頼って生きていくところが私たちの感覚と似ているような気がして、セリフをつける時などに感情移入しやすいと思っています。絵本に描くときには、子どもたちが普段から目にしやすい身近な生き物を描写できるように横浜市内の公園などで生き物の生態を取材、観察しています。

— これから描いてみたいものは？ —

まだまだ取り上げてみたい生き物がたくさんあります。しばらくは今のまま、けれど、フィールドワークを通して身近な生き物を見つけてテーマにする路線で続けていくつもりです。現在、新しい赤ちゃん絵本を手がけています。自分で子育てをするようになってから取り組んだ作品になります。0・1・2歳の子育てを振り返って、こういう本がほしいと感じたことを込めました。これから先も、この年齢の時にはこんな本がほしいと気が付くこともあると思うので、自分の子育ての経験も活かして、これからの新たな作品を生み出していきたいです。

身近でできるSDGs

このコーナーではSDGsの17の目標に向けて身近にできることを紹介していきます。今回はベイ★キッズも参加しているラジオ番組について紹介します。



話そう!横浜での子育て ワイワイレディオ



東日本大震災以降、全国的に防災意識が高まっている昨今、地域のラジオというメディアが見直され、各地でコミュニティ放送局が増えてきています。そのうちのひとつが横浜市中区にある「マリンFM(86.1MHz)」。「つながらず地域の放送局」として2019年8月26日に開局しました。サテライトスタジオが横浜ハンマーヘッドにあります。

このマリンFMで昨年12月より子育て支援情報コーナー「話そう!横浜での子育て ワイワイレディオ」が始まりました。

どんな内容?

横浜で子育てや子育て支援をしている人たちが4つのチームに分かれ順番に担当し、素朴な疑問を語り合い、子育てに役立つ情報をお届けします。

こんな放送をしてきました

- 子育て世代に伝えたい**防災情報**
 - 子育てに関する葉っぱのコメントカードを使ってトークする**ワイワイ会議**
 - ゲストを招いて**子育てトーク**
- そして…**ベイ★キッズのラジオで編集会議!**紙面では載せきれないこぼれ話をお届け



2023年1月～3月の放送予定

番組「ヨコハマ Voice Street」の
第2・4金曜15:30～16:00のコーナー
1月13日/1月27日★
2月10日/2月24日
3月10日/3月24日★

★印がベイ★キッズのラジオで編集会議です。
※変更になる場合があります。ベイ★キッズLINEでお知らせします。

マリンFMの放送エリアは横浜市中区及び西区、南区、磯子区の一部ですが、**ラジオ局公認の無料アプリ「ListenRadio(リスラジ)」**を使ってスマートフォンで聞くことができます。



ベイ★キッズ編集部メンバー

防災情報担当メンバー



季節と暮らそう

冬のお届け便

「横浜市子ども植物園」より、季節の植物を紹介します。

カンキツ類



写真は12月に子ども植物園で撮影されたナツミカン

世界中にさまざまな品種が存在するカンキツ類。起源は、インドやマレーシア、中国南部といった熱帯アジアに集約されます。私たちがよく口にするウンシュウミカンや、ハッサク、ナツミカン、イヨカンなどは江戸時代に日本で誕生しました。日本で収穫されるカンキツ類は、80品種余り、ウンシュウミカンは細かく言うと100以上の品種に分けられます。

ところで、ナツミカンは、今の時期にはもう実が着いているのをご存じですか?花期は5月頃、果実は晩秋には色付きますが、その頃はまだ酸味が強いので初夏まで待ってから収穫します。十分な酸味がある程熟すと甘みが変わるのです。早目に収穫し追熟させる方法もありますが、本来どんな果実も収穫まで樹上で完熟させるのが最も美味しくなります。

(緑の相談員・速水善浩)

【問い合わせ】 横浜市子ども植物園 入園無料
南区六ツ川13-122 ☎045-741-1015 開園時間9:00～16:30

*園内で開催している子ども向けイベントをベイ★キッズLINEでお知らせ。LINE登録は4面を見てね。



パパと遊ぼう!

よこはま子どもカレッジの「名物せんせい」

ドッジボールコーチ編

ドッジボール日本代表
篠原謙生 先生

2022年12月にエジプト・カイロで行われたワールドカップ混合(男女一緒)の部に主将として出場、見事3位に!
競技ドッジボールの普及活動を精力的に行っている。Youtubeでは「はじめしゃちょー」とコラボしたことも。

Q.お父さん、お母さんに伝えたいことは何ですか?

ドッジボールは大人も子どもと一緒に楽しめるスポーツです。一見、大人が有利に思えますが、大人側の陣地を狭くしたり、ボールを複数にすることなどで、子どもと対等に楽しむことができるようになります。ドッジボールで親子一緒に身体を動かし、コミュニケーションを図ってもらえたらとても嬉しいです!

子ども達に様々な体験を提供している「よこはま子どもカレッジ」。子どもたちを指導してくれている個性豊かな先生を紹介します。



Q.ドッジボールにもワールドカップがあるんですね!?

はい。もともとドッジボールはイギリス発祥と言われ、世界中で多くの人を楽しんでいます。ワールドカップで行われるのはボール5個を同時に使う「マルチボール」と呼ばれるもので、選手6人が正面から5個のボールを使って当て合うものです。複数のボールが飛び交うので、とてもスリリングなんですよ!

Q.ドッジボールを通して伝えたいことは何ですか?

ドッジボールは、投げる、捕る、避けるの3つの動作が基本になっています。投げるのが苦手でも避けるのは上手だったり、実は得意なことが1つあったりします。その「できた!」瞬間を僕たちが見つけてたくさん褒めてあげることで、前向きな気持ち、チャレンジする気持ちを持つようになってもらえたらと思っています。

横浜のパパが発信!
パパが子育てを楽しむためのコーナーです。



「よこはま子どもカレッジ」公式HP

